宮崎市立青島小学校　5年

景観教室レポート

景観は、海、山、川などの自然環境、建物や道路など目に映るまちの姿だけでなく、雰囲気や文化歴史などの印象を含め、生活空間や環境そのものであり、都市の個性や文化水準を表すものです。

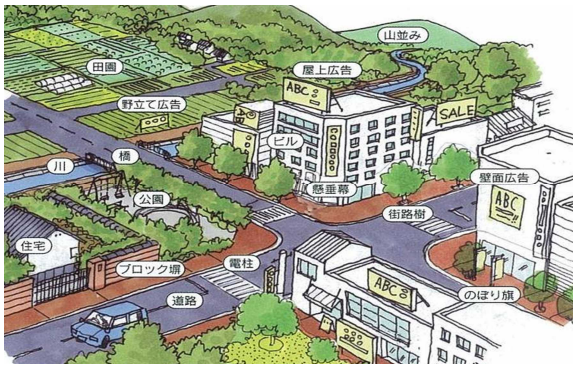
青島小学校では、景観を学ぶことを通して、景観への関心や意識を向上、郷土への愛着を図ることを目的として、平成２８年９月に、宮崎市景観課と㈠宮崎県建築士会の協力により、５年生２３名を対象とした『景観教室』を、計３回行いました。

第１回「景観を知る」　９月２６日（月）３・４時間目

■ 景観に関する基本的な学習

前半は「景観とは何か」という内容で、建築士会の浅部さんより、基礎的な授業が行われました。

自然や建物など、国内や世界の景観写真を見ながら、景観の考え方を学び、景観づくりでは「市民・行政・企業」が協力することが大切なことを知りました。

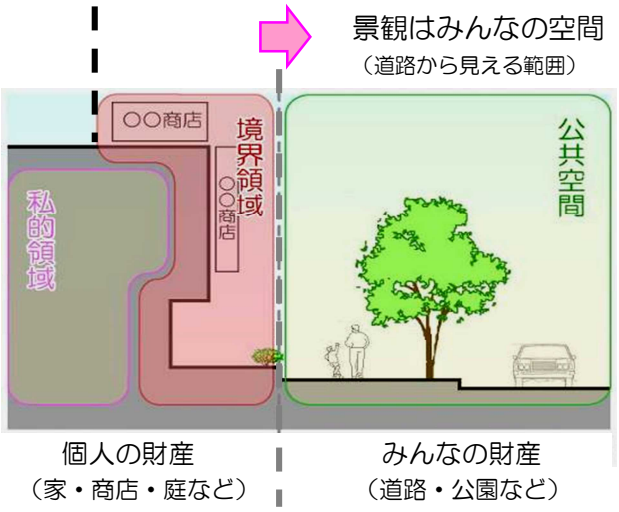


自然・道路（ワシントニアパーム）

建築物（宮崎県庁本館）

産業（田野町にある大根やぐら）

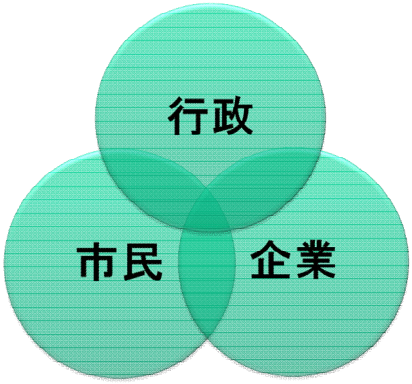
歴史（日南市　飫肥）



☆★ 景観学習のポイント ★☆

①景観をつくるもの：自然、建築物、看板、産業、芸術、歴史･･･

②景観はみんなの財産(宝物)、みんなの手で作る、守る、育てるもの。



景観はみんなでつくるもの・守るもの

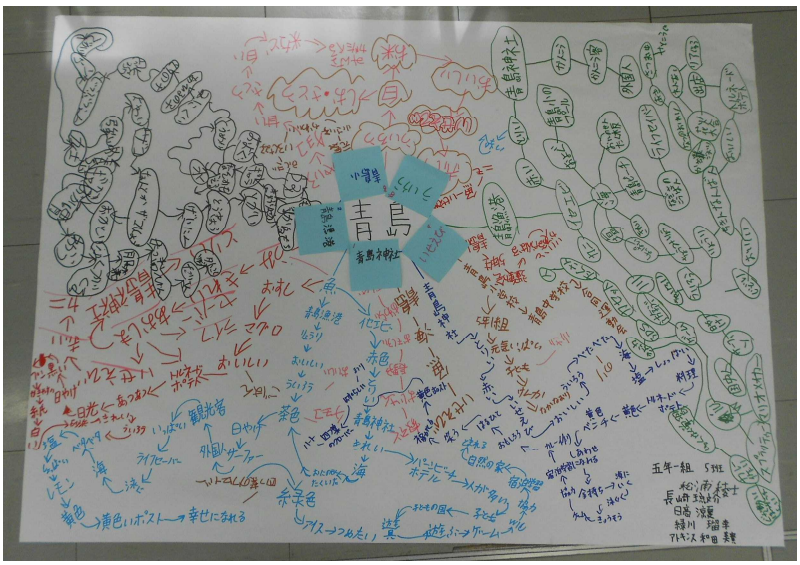
授業をして頂いている建築士会の浅部さん

みんな真剣に聞いてます。

■ 青島のイメージを探る～マインドマップ作成～

後半は、「マインドマップ（連想図）」づくりです。心（マインド）の中で思っている言葉を地図（マップ）のように自由に書いて、イメージをふくらませるものです。この「マインドマップ」という手法を用いて、「青島」をイメージする言葉を自由に書き出し、この中から「青島」らしいワードを５つを各班ごとに発表しました。

→マインドマップ作成の様子。「青島」をイメージする言葉を書き出しています。



出来上がったマインドマップ
（言葉が枝葉状に描かれます）

★マインドマップ（連想図）を通じて、「青島」をイメージするきっかけとなりました。
「青島」といえば・・・青島神社、海、自然、サーフィン、伊勢えび、青島小学校などなど・・・

第２回「景観を考える」　９月２７日（火）３・４時間目

■ 「青島の景観」について考えたことを書き出してみる

児童の皆さんは、５班に分かれて、青島の景観に対して、「誰が、どこの、どんな、今すぐできること、１人でできること、仲間とできること」等について考えました。

↑班ごとの作業の様子

↑書き出し作業の様子

★ 景観について書き出した内容の発表

各班ごとに、景観について考えてことを発表しました。

↑各班発表の様子

↑各班発表の様子

↑各班発表の様子

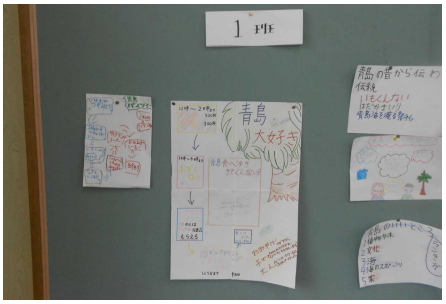
児童の皆さんは、「青島の景観」についてとても真剣に考えていました。

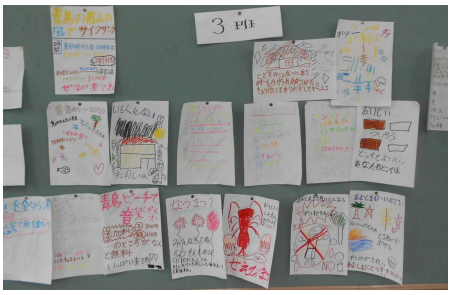
第3回「景観を表現する」 9月30日（金）3・4時間目

■ 景観フライヤー

これまでの景観教室のまとめとしてフライヤーの作成をしました。児童の皆さんが作成するフライヤーは、どれも個性豊かなものでした。

↑フライヤー作成の様子





作成したフライヤー

■ 授業の最後に・・・

作成したフライヤーを各班ごとにみんなの前で発表しました。

特徴あるフライヤーが多く、楽しい雰囲気の中で発表しました。

↑班で作成したフライヤー発表の様子

↑班で作成したフライヤー発表の様子

↑班で作成したフライヤー発表の様子

☆★ 記念撮影～みんな良い表情です～ ★☆

■ 景観教室を終えて・・皆さんの感想（一部を紹介します）

- ３日間の少しの間に景観のことをいっぱい教えていただきありがとうございました。最初は、景観とはなんだろうと思いました。教えていただいたら景観とはなにか分かりました。
- 私達の身近なところにもたくさんの景観があるということにビックリしました。自然についてのことには興味がなかったけど、これからは少しでも何か景観を見たいです。たくさんのことを学ぶことができたので良かったです。
- ５年生になって初めて景観教室をして楽しかったです。また景観教室の皆さんに来てほしいです。景観教室をして、あらためて青島を好きになりました。
- この景観教室を終えて、とても青島のことを好きになりました。あらためてこんな自然の中で過ごせることにとても感謝しています。もっと青島のことを観光客に知ってもらいたいです。自分たちでできることは一生懸命がんばりたいです。
- 景観教室をして青島には、たくさんの景観が広がっていることに気付きました。景観教室でフライヤー作りをしていたら、青島には、いっぱいの祭りがあり、いっぱいの食べ物があり、いっぱいの景観があることを知りました。
- 青島のことを知れて良かったです。

■ 景観教室を終えて

最近の青島では、古き良き時代の施設が老朽化や顧客減少などの影響からか姿を消しつつあると同時に、生まれ変わったり空き地になったり新たな観光スポットになったりと、その変化には目を見張るものがある。時は変われどやはり青島は独特の景観を活かした観光地なのだと思う反面、そこに暮らす人々はそれをどう受け止めてどう活用していこうと思っているのだろうか。当然、青島に暮らす人たちが皆、観光で生活している訳ではなく、観光以外の魅力もあるはずである。どの地域でも昔からそこに住む人はその地特有の良さは、まるで空気のように意識していない事が多く、そこへの気付きこそが大切だと感じている。今回、青島の子どもたちには目には見えない宝物探しとして「目に映る景観」それを構成する目には映らない社会の動きや時代の流れ、そしてその中で意識を持った人々の心を宝物として捉え、宝探しの探検隊とした。探検隊とはいっても実際に外に出ての活動は行わず自分たちの心の中を探検することとして、マインドマップの宝地図を確認しながら、心の中に散在する景観キーワードを整理してベスト５を導き出し、それらの景観は誰がつくったかを考えた。自然の景観であってもあえて誰がというように考えてもらい、人がどう関わってきたのかを感じてもらったうえでの、仲間探しプランのフライヤーづくりを行った。まちあるきがないうえに考えてばかりの授業だったのでちょっと窮屈だったかなとも思ったが、自由につくるフライヤーではいろんなプランが飛び出し驚かされた。

（一社）宮崎県建築士会　浅部 真弘

［制作・発行］平成２９年１月　宮崎市都市整備部景観課　TEL0985-21-1817　［協力］（一社）宮崎県建築士会